

令和2年6月（2020年）No. 654

## 6月より例会も再開

### “三密”を避けつつ、楽しく「対話」を

新型コロナウイルス禍による緊急事態宣言が、ようやく5月下旬になって解除されましたが、まだ全面解決ではなく生活に“三密”が要請された上でのことです。例会場でも“三密を避け定員数の半分以下、入口扉の開けっ放し、マスク着用等が求められています。今までのように気楽に例会をすすめられる雰囲気とは少し違いますが、何より、今まで家で閉じこもり、人と対話する機会も少なかったコロナ騒ぎの頃を思えば、映像仲間と会え、対話を楽しめるようになるということは、なんと幸せなことか、まずは6月27日（土）の例会が楽しみです。

皆さん、元気でお会いしましょう。また作品も大型スクリーンで大映写の映像を楽しみましょう。

#### ■第60回記念OMC映像フェスティバルは予定通り11月28日開催

コロナ騒ぎで十分撮影ができなかった方も多いと思いますが、今回は60周年記念、朝日生命ホールで開催しますので、各会員の新作は勿論ですが、今まで制作された作品の中から良い作品を選んでプログラム編成をします。プログラム編成会議は9月を予定しております。皆さん、そのつもりで作品を準備してください。

#### ■課題コン「実」は7月第2例会日16日13時より難波市民学習センターにて行います。皆さん、実際に作品制作進んでいますか？

#### ■投稿募集続けます

OMCニュースに毎号載せますので、コロナ自粛中どんな過ごし方をしていたか等お便りをお待ちしています。投稿は中川広報担当までメール等どうぞ。

## 6月例会のお知らせ

■6月例会は第4土曜日27日18時より難波市民学習センターにて。4月、5月YouTubeで発表された作品もOKです。ぜひ作品をご持参ください。マスクも忘れずにどうぞ！

# 遠隔会員からのメール便り

このほど山口県にお住いの OMC 会員、河口禮志さんから、事務局の進藤氏との間でメール交換がありました、YouTube で流した 5 月誌上例会作品をご覧になったようです。遠隔会員にとっては有効な発信手段かも知れませんか。

☒⇒ 河口 禮志 様  
「OMC 5 月例会作品について」

進藤信男

コロナ感染が続いていますが、如何されていますか。  
先月会長あてに送られた月例作品 5 作品を YouTube に「会員限り限定」で載せましたが、ご覧になれましたか。応募いただいた以上、作品は例会同様に皆さんに見て頂くのがよいとの思いで掲載しました。皆さんの、受信環境等の確認もしていませんので、いかがでしたでしょうか。

☒⇒ 進藤 信男 様

山口県周南市 河口禮志

YouTube にアップされた 5 作品拝見しました。何ら不都合なく視聴出来ました。  
毎月送られてくる OMC ニュースでは作品静止画と共に「本人コメント」と「第三者コメント」を読んで想像するしかありませんでしたが、作品本体を YouTube で拝見できるとは遠隔地にいる私にとっては新鮮な出来事でした。  
田舎暮らしをしている我が地域でのインターネット環境は ADSL でしたが、今年の 1 月に光回線に切り替えることが出来ました。NTT の光回線ケーブルは 1 年以上前に敷設されていたのですが、NTT が開放していなかったため、切り替えができなかった訳で、今回やっと光回線化できました。  
コロナ騒ぎで制約が多い日々が続いていますが、早く収束してまた皆様とも会える日を楽しみにしています。  
YouTube 映像 まことにありがとうございました。

## < 投稿 >

### ■ 「コロナウイルス禍の、ある日の事」

進藤信男

コロナウイルス感染が伝えられて、何の事かと戸惑ったのが昨日のようになりました。こんな折、何気なく開いた新聞のコラムに目が留まりました。  
「手段が目的化することを趣味という」の言葉に引き付けられました。

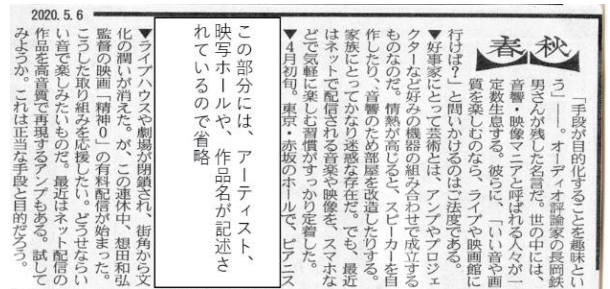
一般社会には、4K の言葉を知らない人も少なくなり、テレビ番組では少ないながらも 4K 放送を見ることが出来ます。若い人たちを中心にビデオカメラを持つ人が多く、家族の姿や旅行に持って行き撮影している。そんな環境になっています。私が、ビデオに関心を持った 20 年前とは随分変わりました。

この記事を見ながら、現在の自分に置き換えてみるとどうなのだろうか。「好い作品を作って、できるだけ多くの人に見てもらいたい。」みなさん、そんな願いを持っているに違いありません。

そのために、しっかりしたカメラ、編集するパソコンを準備し、例会で発表したり映写会を開いてたくさんの方に見てもらいたい。しかし、それだけの事なのだろうか。

私の場合、ビデオ編集とはどんなものなのか制作経験もなく全く分かりませんでした。例会に参加させていただき、先輩諸氏の作品を見ながら、どうすればあんな作品を作る事が出来るのか。例会で、12 分ほどの作品を 2 分縮めたという話を伺い、何故そんなことが必要なのか全く分かりませんでした。当然、パソコンについては、私たちの年代ではいわゆる現役時代に正規の指導や教育を受ける機会もなく精通していたとはとても言える状況ではありません。まして、ビデオ編集に必要なパソコンとはどんな機能や能力が必要なのか。どんなソフトウェアがあるのかも全くの白紙同然でした。

スチールカメラについては、楽しみで家族・子供の成育や旅行記録を撮影する目的のものとの認識でした。いざ、ビデオを始めてみると分からないことだらけ。オーディオのビット数の話には、ビットという言葉はコンピューターの世界ではどんな事なのかは分っていましたが、それが何故ビデオのなかにあるのか。まして、再生出来たり、出来なかつたりが何故起こるのか。むしろ不思議の世界でした。この点については、OMC の



皆さんと、Sony Vaio に感謝です。

今回のコロナウイルスによる外出制限期間中には、ビデオを続けていくためにこの機会に出来ることは何なのかを考えました。

DV テープによる撮影記録データや作品データの HDD への変換は、ほぼ終わっていましたが完結させよう。しかし、これは数日間の事でした。

次に、例会会場が使えないときにはどうすればよいのだろうか。同好のものが集まり、見たり聞いたりのお機会は何にも代えがたいことに違いないが、それが出来なければどうするのだろうか。

学校が閉鎖され、家庭などでの IT 学習が盛んに報道されている。現役の人たちにはリモートオフィスという言葉が盛んに使われている。かつて聞いたことがある「デジタルデバインド」という言葉が頭をよぎることがありました。

今年のゴールデンウィークは、緊急事態宣言による外出禁止で子供たちの帰省が出来ない状態になりました。子供たちは、自分たちの時代とは異なり少ない兄弟や「いとこ」たちで年に数回会える機会をお互いに楽しみにしていました。

そこで目にしたのは「Zoom」という新聞記事でした。会議システムとは云われているが、これなら利用できるのではないかと。どうやら、学校の遠隔授業として利用されており人数制限も少なく、初めての人たちにも簡単に利用できる。マイクとカメラを備えたパソコンがあればすぐ出来る。やってみよう!!子供たちはすぐに反応してきました。一昨年から同居している孫は、学校が閉鎖になっており、我が家の WiFi 環境で「Zoom」を遠隔授業に利用している。自分も帰省できない環境であり、積極的に参加してくれました。

これは、大盛況でした。帰省して会えるのはその場にいる人たち。今は、学校閉鎖や会社も在宅勤務などになり子供も親も自宅にいる。年に一度や二度の帰省では全員同時に顔を合わせることはない。一つの画面に、三か所の家族全員の顔が映っている。これは、IT 技術の恩恵享受で、賑やかに盛り上がり感激でした。

この事態から、例会の代替にも方法があるのではないかと。また、普段にも利用することが出来て時間が限られた例会を補強するものとして役立つのではないかと思いました。

- 「Zoom」は、パソコンの負荷もきつなく費用もかからないことからお互いの相談事などに使える。もちろん、打ち合わせや例会代替としても有用です。
- セキュリティに配慮すれば、リモート オペレーションによる編集ソフトの練習操作にも利用できる簡易ソフトがある。すでに、一部の方が利用されているので広める価値がある。普段から疑問が解けない、ビデオファイルのフォルダー管理などの質問やその回答にも利用できる。現在利用している編集用ソフトウェアは、会員間で5種類程度あるようですが、それらの分からない操作や、新しい機能操作学習などにも利用できる。
- 今回、例会作品の視聴に利用した YouTube は、著作権に注意が要るがその場の映像再生には手軽に利用できる。
- 普段から、作品データ授受の機会が多くあります。クラウドサービスと呼ばれる「One Drive」、「Google Drive」、「Giga File」などのファイルシステムで広告表示の少ないものが使いやすい。

ストーリー組み立てなど、作品製作ノウハウに加えて、お互いによく知った仲間同士、特定の方の負担としないよう気を付けて、フランクに対応すれば新しい道が開けお互いのレベルアップと新入者への対応にも役立つ。新入者歓迎にもなり、新しい目が出てくるように思います。

OMC 会員の多くの方は、20 歳や 30 歳代から 8mm を始められている。その頃の 8mm には、こんな挑戦分野があり魅力を感じて取り掛かったのではなかっただろうか。小型映画製作には、自分も俳優として出演したと聞きます。映画製作過程にも、手作りで挑戦できることがあったのではないだろうか。どこのクラブも、新規参加者が少なくなっているから久しい。

「最近の方は、カメラは買って写すが編集までやらない」、「メーカーの都合で、映像方式やコードなどが変わりユーザーがついていけない」、「いろいろと遊ぶ方法があり、ややこしいビデオ編集は鑑みられない」、挙句「指導者が高齢化してしまった」など出来ない理由がよく言われます。

もう一度、若返ってビデオの生立ちやら特性を振り返って考えてみると、新しい参加者にも魅力的な、目的化できるビデオ制作の手段など、何か役立つことが浮かぶかもしれない。徒然に、こんな思いがする昨近です。

## ■ 「明智川の真実」

### 高瀬辰雄

毎年 4 月下旬、京都・松尾大社で山吹の花が満開となり、境内を流れる小川の周囲は黄金色の花で彩られます。この小川は嵐山渡月橋畔一ノ井堰から分かれ、西の岡郷一帯の田畑を潤している「洛西 西幹線用水路」



で、通称「小島川」、別名「明智川」と呼ばれ、明智光秀にまつわる逸話が残っています。

天正10年6月2日、本能寺で織田信長を誅殺した光秀は、早々に引き上げる途中、山陰街道宿場町の檜原で落馬。それを村人が助け、おにぎりでも食べて下さいと親切にした。光秀は礼を言いながら「時に東の火車は何処か分かるか、当てたら望みの物を与えよう」と言った。村人は即座に「本能寺」と答えると「見事だ、欲しいものは何か」と問われ、村人は「この辺の水田は水が不足だから、川を造り 水を通して欲しい」と申し出、光秀はただちに着工したという。それが明智川の謂れで、檜原宇治井町にこれを記した立札が立っています。

しかし檜原から本能寺まで10キロ以上はあり、火が見えるはずはなく、さらに光秀は3日後に秀吉に敗れており、用水路を造る時間などないはずです。この川は天正3年、光秀が丹波を平定した折、老いの坂から檜原までの道を整備し、併せて灌漑用水路を築造したというのが真実で、逸話は光秀の善政を誇張した作り話のようです。

「実」の課題コンにこの逸話を元に「明智川の真実」というタイトルで作品に出来ないものか?とったりしていますが…。

## 5月誌上例会レポート

コロナ禍はまだ収まらず、5月例会も中止となった。しかし会員諸氏の映像への想いは止まることなく、8本の作品が会長宛に寄せられた。うれしい限りである。6月からは会場の学習センターも開場しているので、通常の例会で大映写が楽しめるので、誌上例会は今月限りであろう。いや、早く普通の例会が待ち遠しい。

この誌上で発表された作品は、進藤氏によりYouTubeで見られる筈だから見れる人は見て下さい。

### ■提供作品紹介

- 1、紀州鉱山鉄道 BD  
紙本 勝 10分00秒

#### <作者コメント>

三重県の国見山石灰鉱業専用線跡はベルトコンベアーに変わったので廃線、紀州鉱山鉄道は鉱山の閉鎖によるが、そのあとはトロッキ電車为载体で、江村作品の様に旧施設の詳細はかけていないので、物足りなさがあると自分でも思っています。

#### <会長 評>

サブタイトルで「廃線ぶらり歩き No/16」とあるので、配線を取材撮影された作品だけでも16作品というから、いよいよ紙本さんの撮影に対するご熱心さと、90歳を越えてなお御健脚ぶりには、只々感服のほかありません。今回の旅は三重県の国見山石灰鉱業専用線を訪ねられたもの、一部はトロッキ電車として湯の口温泉まで今でも観光用として走っており、作品はそのトロッキ電車に往復載ってこられました。そのところが少し長いかなと思ったのと、ナレーションで「往きと帰りの感じが”違うようです”と感想を述べられているが、自分の感想なので”違いました”と言い切る方がよかったです。

- 2、片上鉄道 BD  
江村 一郎 7分30秒

#### <作者コメント>

岡山県のローカル私鉄「同和鉱業片上鉄道」は1923年(大正12年)に鉱石輸送のほかに沿線住民の足として路線34Kmで開業した。しかし国内産硫化鉄鉱の需要減と過疎化の乗客減で採算割れとなり1991年(平成3年)に全線廃止となった。その後「棚原ふれあい鉱山公園」が開園する。月1回保存車両の展示運転があり、それに合わせて去年の春に行ってきました。

#### <会長 評>

江村作品も廃線紀行で、こちらは⑨とサブタイトルにあったから、紙本さんに続き廃線の跡が好きで取りに行かれているのだと思います。確かに廃線の跡というのは哀愁があり、ロマンがあり「絵」になるようです。ただ、見る側から言えば、どこにあるのか真っ先に知りたいところ。ですからタイトルのすぐ後あたりに〇〇県のこの辺りの線、と略図で示してから本番が始まると安心して観ておられるでしょう。カットは猫駅長、遮断機を降ろすところ、タブレットを持つ運転手、ビデオカメラマン等印象的なカットが多くありま



した。全般的にはノンナレーションなので、作者の片上鉄道廃線についての想いが、見る人にあまり伝わってこないのが物足り無さを感じるどころです。細かいところを言えば「制作・江村一郎」の字が小さ過ぎるのと、BGMがクレジットタイトルの始めから終わりまで切れ目なく入っていて現録が活かされていないのは如何なものでしょう。廃線跡に立って、じっと往時の事を思い出す時などBGMはかえって逆効果になることがあります。

**3、舞・よさこい** BD  
江村 一郎 8分10秒

<作者コメント>

令和2年の今はありとあらゆるイベントが中止となり何とも言えない閉塞感を漂わせています。映像だけでも毎度おなじみですが「よさこい」で会報気分を味わってください。(大きなお世話ですが)

今回はスローモーションとかエフェクトを多用し同じ素材でも少し違って見えるのは面白いかと思う。

<会長 評>

よさこい本場の高知で毎年撮影に帰郷されている江村さんの、一連のよさこい作品ですが、今回は少しでも変化をつけようとスローモーションを多用して纏められました。そのため音の方が少し犠牲になったのではないか、そんな気がしましたが、さすが、よさこいの江村さん、他を寄せ付けない重みがありますね。今年のよさこいは例のコロナのせいで中止だそうですが、映像を見ているとまさに”三密”にならないとよさこい祭りは成り立ちませんね。早くコロナ禍から抜け出したいものです。



**4、広沢池 鯉揚げの頃** BD  
高瀬 辰雄 7分20秒

<作者コメント>

京都嵯峨の広沢池は秋の終わりになると池の水が抜かれ、干上がります。鯉や鮒などがはね、それを掬い上げ生け簀に入れ売られます。これが京の冬の風物詩「鯉揚げ」です。

広沢池の季節の変化を織り込み、まとめてみましたが、おおきな鯉をボートいっぱい掬い揚げるシーンを撮れなかったのが心残りです。

<会長 評>

しっとりとした情感あふれる作品ですね。あの大きな嵯峨野の広沢池が、毎年冬になると水を抜かれて干潟にして魚を取っているとは初耳でした。水を抜く理由は単に鯉などへの魚の収穫だけなのでしょう。理由はもっと他にもあるように思えるのですが、例えば溜まった泥を浚渫するとか、外来種を排除するとか。また、水を抜く水の落ちるカットも欲しいところです。京の風物詩、こんなところにもあったんだと改めて感じ入りました。



**5、ひらの郷** DV→BD  
関 剛 6分20秒

<作者コメント>

約20年前、大阪ビデオクラブ(OVC)撮影会の作品。当時大阪アマ連平野映像塾 会長 松村長二郎氏(故人)の説明で平野環濠集落を取ったもの。松村氏としては古い町並みを取って後世に伝える意味の映像にしてほしかったらしいが、私は自分流の取り方と編集で「作品」にしたため、松村氏から少しお叱りを受けた記憶がある。

<会長 評>

あれからもう20年になりますか、大阪ビデオクラブ(OVC)の撮影会で大阪市平野の環濠都市跡を撮影しようと企画されたものです。いい撮影会でした。関さんは関さんらしく心象風に作られましたが、こういう表現方法は、やはり関さんしかできません。いま拝見しても新鮮な感じで当時はよみがえってきます。



**6、篠田のひまつり** BD  
進藤 信男 12分25秒

<作者コメント>



毎年5月に行われている「近江八幡三大火祭り」の一つ。手筒花火が中止となり追加撮影が出来ず残念だったが、2011年と2012年撮影分をまとめた。ヨシで作られた大松明と伝統的な仕掛け花火は、迫力があつた。ちょうど東北大震災直後で追悼の祈りもあり、「ガンバロウ日本」や「母子再会」がテーマとなった花火だ。前者のガンバロウ等々は、手筒花火同様に神社山門で行われたため部分的にしか映っていない。現在進行中のコロナウィルス禍が吹っ飛んでくれると嬉しいのだが・・・。



#### <会長 評>

お祭りの作品の中では題材が珍しく、印象に残るものがあります。作品に出てくるタイトルは「日本古式花火・和仕掛け」とありますので、作者は題名通りの火祭りを狙った作品を目指されたものと思います。そうだとすれば、説明的というか記録的な、というか狙いとは外れたカットが多過ぎます。どこでも見られる単なる打ち上げ花火とかナイヤガラ仕掛けなどは、狙ったテーマの盛り上げを阻害しています。この作品で描きたかったのは、日本古式・和仕掛けの筈。これを山場に捉え、じっくりと母子再会の図として硫黄板仕掛けの和風花火を描き、それに相応しい音楽を選んで静かに終わっていく、そんな作品に仕上げたいものです。そのためには、実際とは順番が逆ですが、子ども神輿行列(秋祭り)とか大たいまつシーン等は、その前に短めに持って行ったらどうでしょうか。いずれにしても脚本の見直し再編集により、良い作品に仕上がること間違いありません。

尚、BGMや現録に比べてナレーションの声の大きさが低いので、もう少し大きな声か、レベルを上げた方が聞きよくなります。

#### 7、ひまわり

BD

堀 皓二

10分00秒

#### <作者コメント>

世界初の原爆が広島に投下された。主人公は被爆を逃れたものの心に大きな傷を抱え続けた。75歳を迎え、亡き同級生たちに会う為広島行を決意した。本人は体調不良にもかかわらず広島ロケに同行して下さった。主人公はクラブ(映像北大阪)の会員さんでした。核兵器使用の危機が叫ばれる現在、ドキュメント作品を通じて発信することの重要性を実感しました。沖縄の中学で授業に使われたと聞いています。



#### <会長 評>

7年前の平成25年に制作された堀さんの代表作の一つ。原爆をテーマにしたドキュメンタリー風に描かれた作品。いつ見ても心を打つものがあります。作者はこの作品を作るために、主人公共々、広島まで行かれて撮影されており、苦勞して作られた作品だと思います。確か、どこかのコンテストに入賞された作品だと思いますが。

#### 8、関西花の寺 子安地蔵寺の藤 BD

中川 良三

5分10秒

#### <作者コメント>

自宅(河内長野)から橋本へ行く国道途中にある、「関西花の寺25選」に載っている子安地蔵寺。このお寺のおすすめは見事な「藤」です、多種多様な藤の花が視覚・嗅覚を楽しませてくれます。

今年は残念ながら新型コロナウイルスの影響が長引き開催していず、「藤娘」に御目にかかれぬのは少し残念。2017年に撮ったデータを見直して再編集しました。

#### <会長 評>

和歌山県の子安地蔵寺は「藤」が有名な寺ですが、今年は例のコロナ騒ぎで一般に公開されず、この映像は3年前に撮られたものようです。再編集されたとのことで、今年は見られなかったのが来年は…というナレーションで締めくくられていますが、この作品を今年限りで将来観ることはないというなら別ですが、ナレーションで「今年は」というときは「今年令和2年はコロナの影響で見られなかったが」としておけば後々見たときに理解しやすいでしょう。



藤の花は見事でした。藤にもいろいろな種類があることを知りました。来年は行ってみたいところです。